



DIGITAL HEARTS HLDGS.



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月5日

上場会社名 株式会社デジタルハーツホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3676 URL <https://www.digitalhearts-hd.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 筑紫 敏矢  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 CFO (氏名) 伊丹 英人 (TEL) 03(3373)0081  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	29,087	△4.4	2,341	27.4	2,325	36.6	1,422	3.8
2025年3月期第3四半期	30,414	6.1	1,837	29.2	1,702	11.6	1,369	—

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,263百万円(△10.2%) 2025年3月期第3四半期1,407百万円(849.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	63.79	—
2025年3月期第3四半期	61.47	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円 22,021	百万円 9,991	% 43.9
2025年3月期	百万円 19,949	百万円 9,260	% 44.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 9,672百万円 2025年3月期 8,953百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 10.50	円 銭 —	円 銭 12.50	円 銭 23.00
2026年3月期	円 銭 —	円 銭 11.50	円 銭 —	円 銭 11.50	円 銭 23.00
2026年3月期(予想)					

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 10円50銭 記念配当 2円00銭

## 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	39,750	0.0	2,640	8.6	2,640	15.9	1,660	163.7	74.49	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## ※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1社 (社名) HUWIZ SOLUTIONS INC.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更及び会計上の見積りの変更）」をご参照ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期 3Q	23,890,800株	2025年3月期	23,890,800株
2026年3月期 3Q	1,591,996株	2025年3月期	1,604,473株
2026年3月期 3Q	22,292,634株	2025年3月期 3Q	22,281,077株

② 期末自己株式数 : 無

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）の4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・四半期決算補足説明資料については、四半期決算短信開示後速やかにTDnet及び当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更及び会計上の見積りの変更) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

	2025年3月期 第3四半期 (千円)	2026年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	30,414,489	29,087,474	△4.4
営業利益	1,837,940	2,341,568	27.4
経常利益	1,702,840	2,325,928	36.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,369,660	1,422,011	3.8

当社は、エンターテインメントコンテンツ向けにサービスを提供するDHグループ事業及びエンタープライズシステム向けにサービスを提供するAGESTグループ事業の2つの事業を展開しております。この2つの事業は、それぞれ全く異なるビジネスモデルや専門性を有していることから、当社では現在、両事業の成長ポテンシャルを最大化することを目的に、AGESTグループ事業の中核子会社である株式会社AGESTの株式分配型スピンドル及び上場を目指しており、その実現に向けた準備を着実に行うとともに、両事業それぞれ専門性に特化した独自の成長戦略を推進しております。

DHグループ事業においては、不具合のない高品質なゲームタイトルを、多様なデバイス、様々な国・地域で同時発売するために必要なデバッグやローカライズに対するニーズが増加しております。そのため当社では、創業事業であるデバッグにおいて、独自の品質メソッドである“DHQ (Digital Hearts Quality)”を推進することでサービスの付加価値向上を図るとともに、翻訳・LQA(Linguistic Quality Assurance)や多言語音声収録、マーケティング支援といったローカライズに関するソリューションを強化・拡充することで“エンターテインメント業界のグローバル・クオリティ・パートナー”として世界市場で戦える企業へと成長することを目指しています。

また、AGESTグループ事業においては、ソフトウェアの不具合が顧客企業に与える経済的損失や企業ブランドの毀損といった影響が年々大きくなっていることから、従来以上に“品質”に対する重要性が高まっている一方、国内におけるIT人材不足は深刻化しています。このような状況のもと、当社では、開発の上流工程から品質を支える“シフトレフト”をはじめとする付加価値の高いサービスの提供に努めるとともに、AIや自動化ツールを積極活用することで、テストの精度向上及び効率化を推進するなど、テスト専門企業ならではのソリューションを強化することで“エンタープライズシステムの「品質」を先端技術で支えるAI時代のAIテスト企業”への進化を目指しています。

当第3四半期連結累計期間においては、DHグループ事業の国内デバッグサービスがNintendo Switch 2の発売等を追い風に2桁増収を達成するなど、当社グループ全体の業績をけん引するとともに、AGESTグループ事業のQAソリューションも堅調に推移するなど、両事業ともにコア事業で増収を達成いたしました。その一方、2024年12月に売却した子会社の連結除外の影響や、AGESTグループ事業で行った収益性の低い事業の戦略的縮小等の影響により、売上高は29,087,474千円（前年同四半期比4.4%減）となりました。利益面では、収益性の高い国内デバッグの増収による影響や前期AGESTグループ事業で行った海外事業構造改革等の効果により両事業ともに2桁増益を達成し、営業利益は2,341,568千円（前年同四半期比27.4%増）、経常利益は2,325,928千円（前年同四半期比36.6%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期計上した関係会社株式売却益の反動減はあったものの、営業増益の効果により1,422,011千円（前年同四半期比3.8%増）と増益を達成いたしました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

	2025年3月期 第3四半期 (千円)	2026年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	30,414,489	29,087,474	△4.4
DHグループ事業	18,669,539	17,386,897	△6.9
AGESTグループ事業	12,001,756	11,834,930	△1.4
調整額	△256,806	△134,353	—
営業利益	1,837,940	2,341,568	27.4
DHグループ事業	1,561,319	1,915,065	22.7
AGESTグループ事業	276,620	426,502	54.2

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益は営業利益としております。

## ① DHグループ事業

当セグメントでは、主に、コンソールゲームやモバイルゲーム等の不具合を検出する国内デバッグサービスのほか、ゲームの翻訳・LQA(Linguistic Quality Assurance)、マーケティング支援、ゲーム開発支援、カスタマーサポート等を行うグローバル及びその他のサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間の国内デバッグサービスでは、新型ハード専用テスト機材の拡充や拠点間の垣根を越えたリソース共有等を通じて、顧客ニーズに合わせた柔軟かつ機動的なオペレーションを全社一丸となって推進することで、Nintendo Switch 2の発売を機とした旺盛な需要を着実に取り込み、2桁増収を達成いたしました。

一方、グローバル及びその他のサービスでは、当期から独自のゲーム特化型AI翻訳エンジン“ella”を活用したソリューションを本格展開したこともあり翻訳・LQAの新規案件が着実に増加するとともに、ゲーム開発支援においても新規案件の稼働が高水準で推移するなど、順調に事業が進捗いたしました。また、グローバル領域におけるさらなる成長に向け、タイに拠点を新設するなど、翻訳の対応言語や受注キャパシティの拡大に努めるとともに、カナダのゲームQA会社を連結子会社化するなど、欧米をはじめとする海外顧客基盤の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のDHグループ事業の売上高は、国内デバッグ等の既存サービスでは2桁成長を実現するなど好調に推移した一方、2024年12月に売却した子会社の連結除外の影響が大きく17,386,897千円（前年同四半期比6.9%減）となりました。一方セグメント利益は、収益性の高い国内デバッグが伸長した影響等により1,915,065千円（前年同四半期比22.7%増）と大幅増益を達成いたしました。

## ② AGESTグループ事業

当セグメントでは、主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するシステムテスト、脆弱性診断等のセキュリティテスト、ERPの導入支援等を行うQAソリューションのほか、ソフトウェアやネットワークの監視・攻撃検知・対策を行うSOC (Security Operation Center) 運営、システムの保守・運用支援等を行うITサービス及びその他のサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、成長ドライバーと位置付けるQAソリューションにおいて、引き続きハイスキルエンジニアの採用・育成に注力するとともに、開発の上流工程から品質向上を支援するシフトレフト型テストサービス“QA for Development”や、運用フェーズの品質向上を支援するシフトライト型テストサービス“QA for DevOps”といった高付加価値ソリューションの提供に努めることで、着実に新規案件を獲得いたしました。また、2025年9月に正式ローンチしたAI機能を標準搭載した独自のテストツール「TFACT（ティファクト）」の社内活用モデル版に続き、SaaS版の正式ローンチに向けた準備を行うとともに、今後需要拡大が見込まれる純国産のSBOM(Software Bill of Materials)管理ツールの開発を進めることで、エンジニア数に依存しない新たな収益モデルの構築に努めてまいりました。

その一方、ITサービス及びその他のサービスでは、セキュリティ監視において、一部ベンダーのエンドポイントセキュリティ端末の商材値上げの影響を受けライセンス更新の売上が減少したほか、保守・運用支援をはじめとする収益性の低いビジネスについては、戦略的な縮小を継続いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のAGESTグループ事業の売上高は、主力のQAソリューションは増収を達成したものの、ITサービス及びその他の減収の影響により、11,834,930千円（前年同四半期比1.4%減）となりました。一方、利益面においては、前期実施した海外事業の構造改革の効果等により、セグメント利益は426,502千円（前年同四半期比54.2%増）と大幅増益を達成いたしました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

流動資産の残高は14,843,332千円となり、前連結会計年度末における流動資産14,069,461千円に対し、773,871千円の増加(前期比5.5%増)となりました。

これは、主として受取手形、売掛金及び契約資産が312,429千円、未収還付法人税等が572,854千円増加したこと等によるものであります。

固定資産の残高は7,178,175千円となり、前連結会計年度末における固定資産5,880,029千円に対し、1,298,145千円の増加(前期比22.1%増)となりました。

これは、主としてのれんが1,015,720千円、投資その他の資産のその他が324,841千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

流動負債の残高は11,763,908千円となり、前連結会計年度末における流動負債10,473,095千円に対し、1,290,813千円の増加(前期比12.3%増)となりました。

これは、主として短期借入金が400,000千円、未払費用が501,094千円、その他流動負債が344,167千円増加したこと等によるものであります。

固定負債の残高は265,910千円となり、前連結会計年度末における固定負債215,700千円に対し、50,210千円の増加(前期比23.3%増)となりました。

(純資産)

純資産の残高は9,991,688千円となり、前連結会計年度末における純資産9,260,695千円に対し、730,993千円の増加(前期比7.9%増)となりました。

これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益1,422,011千円があったものの、配当により利益剰余金が535,016千円、及び為替換算調整勘定が144,108千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、2025年5月13日付で「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表しました業績予想からの変更はありませんが、今後の事業環境の動向や業績の進捗を注視し、業績予想の見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	7,593,742	7,301,243
受取手形、売掛金及び契約資産	5,545,690	5,858,119
棚卸資産	65,405	75,592
未収還付法人税等	3,890	576,744
その他	903,078	1,080,434
貸倒引当金	△42,346	△48,802
流动資産合計	14,069,461	14,843,332
固定資産		
有形固定資産	1,475,383	1,634,854
無形固定資産		
のれん	1,035,427	2,051,147
その他	713,043	899,698
無形固定資産合計	1,748,471	2,950,846
投資その他の資産		
投資有価証券	1,340,609	956,145
その他	1,338,621	1,663,463
貸倒引当金	△23,057	△27,134
投資その他の資産合計	2,656,174	2,592,474
固定資産合計	5,880,029	7,178,175
資産合計	19,949,490	22,021,508
<b>負債の部</b>		
流动負債		
短期借入金	5,200,000	5,600,000
未払金	2,280,008	2,241,236
未払費用	982,267	1,483,362
未払法人税等	574,690	595,525
賞与引当金	150,622	214,110
その他	1,285,505	1,629,673
流动負債合計	10,473,095	11,763,908
固定負債		
退職給付に係る負債	16,232	24,538
その他	199,467	241,372
固定負債合計	215,700	265,910
負債合計	10,688,795	12,029,819

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
<b>資本金</b>	<b>300,686</b>	<b>300,686</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>66,018</b>	<b>63,686</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>9,298,826</b>	<b>10,185,821</b>
<b>自己株式</b>	<b>△1,806,469</b>	<b>△1,792,421</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>7,859,061</b>	<b>8,757,773</b>
その他他の包括利益累計額		
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>10,734</b>	<b>△24,888</b>
<b>為替換算調整勘定</b>	<b>1,084,048</b>	<b>939,940</b>
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>1,094,783</b>	<b>915,052</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>306,850</b>	<b>318,863</b>
<b>純資産合計</b>	<b>9,260,695</b>	<b>9,991,688</b>
負債純資産合計	19,949,490	22,021,508

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	30,414,489	29,087,474
売上原価	22,679,722	21,439,206
売上総利益	7,734,766	7,648,267
販売費及び一般管理費	5,896,825	5,306,699
営業利益	1,837,940	2,341,568
営業外収益		
受取利息	20,019	24,029
為替差益	—	29,040
助成金収入	13,727	24,151
その他	14,929	10,747
営業外収益合計	48,677	87,969
営業外費用		
支払利息	23,216	33,116
持分法による投資損失	20,289	50,339
為替差損	114,111	—
その他	26,159	20,151
営業外費用合計	183,776	103,608
経常利益	1,702,840	2,325,928
特別利益		
関係会社株式売却益	603,749	—
事業再編損戻入益	41,450	—
特別利益合計	645,200	—
特別損失		
固定資産除却損	2,060	1,334
投資有価証券評価損	—	301,903
貸倒引当金繰入額	6,678	—
違約金	3,865	—
特別損失合計	12,604	303,237
税金等調整前四半期純利益	2,335,436	2,022,691
法人税、住民税及び事業税	822,478	672,355
法人税等調整額	92,896	△89,926
法人税等合計	915,375	582,428
四半期純利益	1,420,061	1,440,262
非支配株主に帰属する四半期純利益	50,401	18,251
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,369,660	1,422,011

## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,420,061	1,440,262
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△81,954	△35,622
為替換算調整勘定	65,636	△140,795
持分法適用会社に対する持分相当額	3,298	△724
その他の包括利益合計	△13,019	△177,142
四半期包括利益	1,407,041	1,263,120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,367,670	1,242,280
非支配株主に係る四半期包括利益	39,371	20,839

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更及び会計上の見積りの変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

連結子会社である株式会社デジタルハーツが保有する工具、器具及び備品は、前連結会計年度まで定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しました。

この変更は、第1四半期でのゲーム業界における新型ゲーム機材の世界同時発売を受け、今後の需要拡大を見込んだテスト機材の大量調達及び受注体制を構築した結果、今後のテスト用設備や機材の使用状況が安定的であることが見込まれ、資産の使用実態をより正確に期間損益に反映するために実施するものです。

この変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ28,536千円増加しております。

(少額減価償却資産の減価償却方法の変更及び耐用年数の変更)

連結子会社である株式会社デジタルハーツでは、前連結会計年度まで取得価額が10万円以上20万円未満のテスト用設備や機材は、一括償却資産として法人税法の規定により、3年間で均等償却する方法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間から定額法で償却することに変更しました。

また、テスト用設備や機材に関する少額減価償却資産の減価償却方法の変更を契機に当該資産の内、携帯端末機材とゲーム機材について、耐用年数を3年から5年に変更しました。

これらの変更は、同社のテスト設備、機材等は固定資産と少額減価償却資産を網羅する包括的な管理体制であること、並びに携帯端末機材やゲーム機材の使用期間が長期化している実態を考慮し、資産の使用状況をより正確に期間損益に反映するために実施するものです。

この変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ29,643千円増加しております。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	DHグループ 事業	AGEST グループ 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	18,445,810	11,968,678	30,414,489	30,414,489	—	30,414,489
セグメント間の内部 売上高又は振替高	223,728	33,078	256,806	256,806	△256,806	—
計	18,669,539	12,001,756	30,671,296	30,671,296	△256,806	30,414,489
セグメント利益	1,561,319	276,620	1,837,940	1,837,940	—	1,837,940

(注) 1. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△256,806千円は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2. セグメント利益の金額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間末において、当社の連結子会社である株式会社アイデンティティーの全株式を売却し、連結の範囲から除外したことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。

当該事象によるのれんの減少額は、1,041,374千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	DHグループ 事業	AGEST グループ 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	17,271,481	11,815,993	29,087,474	29,087,474	—	29,087,474
セグメント間の内部 売上高又は振替高	115,416	18,937	134,353	134,353	△134,353	—
計	17,386,897	11,834,930	29,221,827	29,221,827	△134,353	29,087,474
セグメント利益	1,915,065	426,502	2,341,568	2,341,568	—	2,341,568

(注) 1. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△134,353千円は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2. セグメント利益の金額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

## (有形固定資産の減価償却方法の変更)

「注記事項（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更及び会計上の見積りの変更）」に記載のとおり、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法を、第1四半期連結会計期間より、一部の国内連結子会社で定額法に変更しております。

なお、この変更により、当第3四半期連結累計期間のDHグループ事業セグメント利益は28,536千円増加しております。

## (少額減価償却資産の減価償却方法の変更及び耐用年数の変更)

「注記事項（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更及び会計上の見積りの変更）」に記載のとおり、少額減価償却資産の減価償却方法の変更及び耐用年数の変更を、第1四半期連結会計期間より、一部の国内連結子会社で適用しております。

なお、この変更により、当第3四半期連結累計期間のDHグループ事業セグメント利益は29,643千円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

## (のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間にHUWIZ SOLUTIONS INC.の株式を取得し、子会社となったため、連結の範囲に含めています。

これに伴い、同四半期連結会計期間において、DHグループ事業ののれんは1,256,519千円増加しております。

## (キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	397,099千円	391,466千円
のれんの償却額	347,668千円	228,954千円